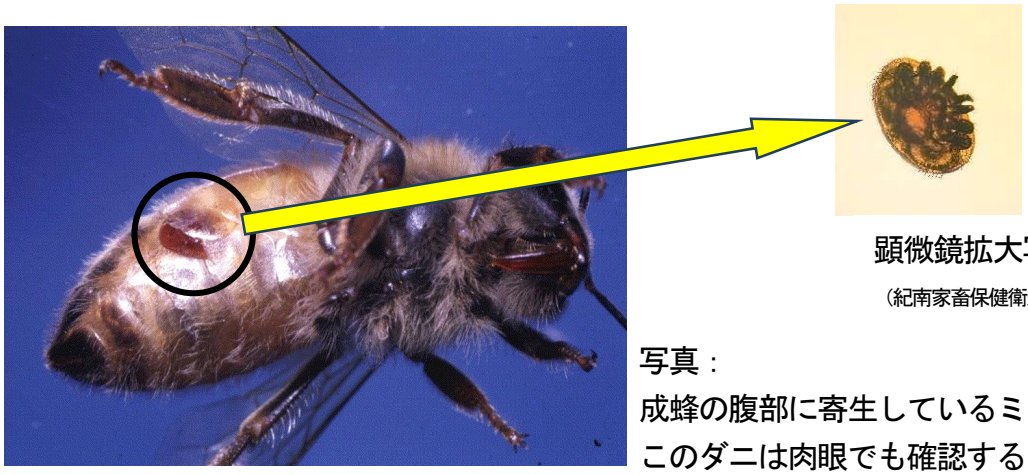
＜バロア症（届出伝染病）＞

この病気は、ミツバチヘギイタダニが蜂の体に寄生することでおこる病気で、幼虫期に感染してしまうと、成蜂は矮小化してしまいます。
秋に重症化し、ダニの増殖速度が速いため、対策が遅れると蜂群が壊滅し、大きな被害となります。
また、このダニはミツバチに麻痺病ウイルスを媒介し、ウイルス感染を引き起こします。
発症したミツバチは、以下のような症状がみられます。

・胸部背面と腹部の体毛が脱落し、体の色が黒っぽくなるため、腹部のバンドが不鮮明になる。
・体や翅を痙攣させながら巣門付近を歩くようになる。
・巣門付近で大量死しているのが見つかる。
・死んだミツバチは、黒褐色になるため、他の死亡状況と区別ができる。



顕微鏡拡大写真

（紀南家畜保健衛生所撮影）

写真：
成蜂の腹部に寄生しているミツバチヘギイタダニ
このダニは肉眼でも確認することができます。

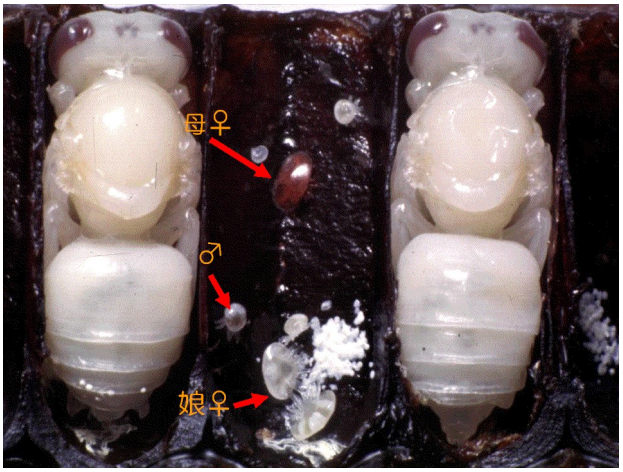
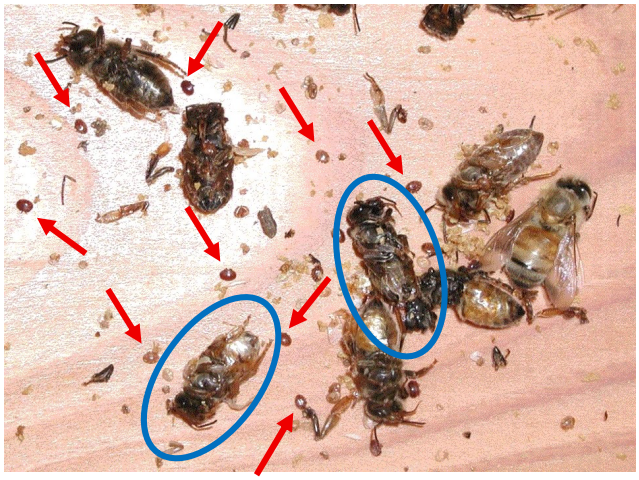


写真
巣房内のダニと蜂児（蛹を取り除いた状態）



写真：
巣箱の底に落ちた羽化不完全な成蜂 ○
とミツバチヘギイタダニ →

写真

写真左の３匹はダニの寄生により、発育異常で羽が縮れています。

写真

右側の蜂は、翅が縮れ、体色が黒ずんでいる。

左側の蜂と比較しても明らかに黒く、腹部のバンドが不鮮明になります。

体毛が脱落し、全体的に腹部に艶感が確認されます。

※写真は一般社団法人日本養蜂協会「養蜂技術指導手引書」より引用

対策

①化学的防除剤（別紙１参照）

＜日本で認可されているダニ用薬剤＞

・アピスタン®（ピレスロイド系殺虫剤：フルバリネート製剤）
・アピバール®（有機窒素系殺ダニ剤：アミトラズ製剤）
・チモバール®（チモールを主成分とするエッセンシャルオイル）

【フルバリネート製剤　アピスタン®】
★使用枚数の目安
標準巣箱あたり 2 枚
巣板 3-4 の間に 1 枚
巣板 7-8 の間に 1 枚
★投薬期間は４～６週間以内
注）採蜜やローヤルゼリーの採取期には使用できません。

【アミトラズ製剤　アピバール®】
★使用枚数の目安
巣板 4-5 枚当たり 1 シート
コロニーの移動にあわせて一を調整
★投薬は必ず６週間設置
注）採蜜やローヤルゼリーの採取期には使用できません。

＜特徴＞
・接触性薬剤のため薬剤成分の分散は蜂が行うことになります。
→蜂の体に付いた薬の成分が蜂同士の体が触れることで分散し、ダニに付着する
⇒蜂群に活力がないと薬剤成分が分散できず効果が下がります。
・薬剤がダニに接触することで効果を発揮します。
・効果：ダニを直接殺す効果はありません。
成分の付着したダニは神経症状（手足がしびれ）を引き起こし、蜂体にしがみつくことができなくなり、最終的に底（巣箱の床）に落下します。
落下したダニは、蜂の体液を吸えず死亡するという作用でダニを駆除する薬剤です。
注）ダニの中には、下に落下しても動けるダニもいます。
⇒薬剤を入れた後は、こまめに巣箱の底（床）の掃除が必要不可欠です。
巣底への粘着シートの設置も有効です。（ミツバチがくっつかないように巣底に金網等を設置し、粘着シートに直接ミツバチが触れないようにすることが必要）

【チモール　チモバール®】

★使用枚数の目安

巣板 8-9 枚当たり小板 1 枚

蜂児エリア中心から 4～10㎝離れた巣板の上に設置

★投薬は 3～4 週間の投与を 2 回実施

★小板と巣箱上蓋との間は 2～3㎝空け、巣箱を閉める

注）採蜜やローヤルゼリーの採取期には使用できません。

＜特徴＞

・蒸散（ガス化）製の薬剤です。
・20℃～28℃が使用適温となります。（外気温が 15℃以下や 30℃以上では効果激減）
・夏の終わりから秋口にかけ使用します。
・巣箱（板）の上に置きます。

※薬剤の使用にあたっては、用法・用量遵守してください。

②物理的防除策

・スクリーンボトルボード（二重底巣箱）
・粘着トラップ
・ビージム（ミツバチダニ対策に使う巣箱出入口付近に設置する薬剤を使わない器具）

・シュガーロール法（別紙２参照）

③生物的防除

・女王蜂の産卵抑制（カゴ、アイソレーター利用）
・雄蜂児巣板除去

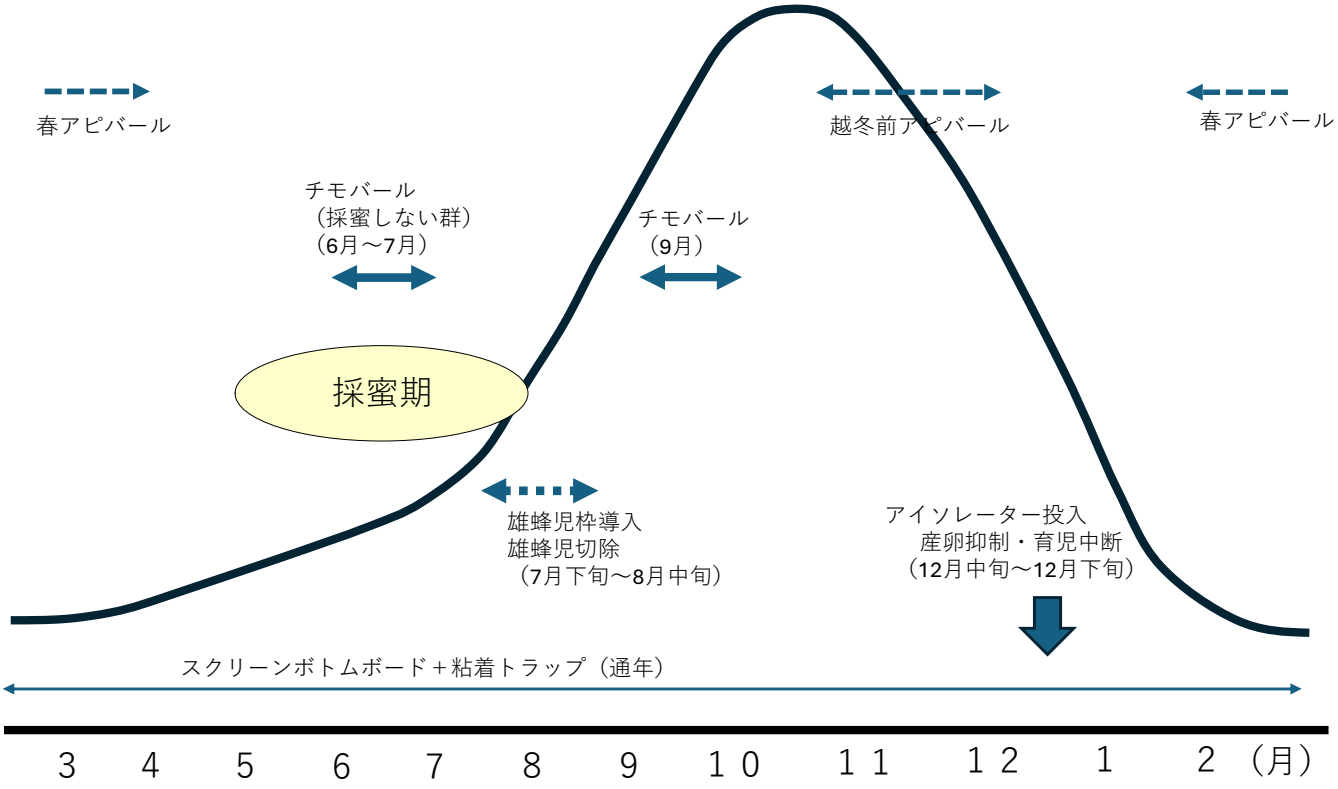
常日頃の衛生管理（蜂場の草刈り、整理整頓、蜂具の使いまわしをやめる、空いた巣箱の洗浄・消毒・乾燥バーナーで焙る、空き箱を放置しないなど）や日頃の観察（健康状態、蜂群の勢い等の観察）の徹底も病気の早期発見・まん延につながります。

飼養するミツバチに異常を感じた際は、管轄の家畜保健衛生所まで連絡下さい。

紀北家畜保健衛生所：073-462-0500
紀南家畜保健衛生所：0739-47-0974
紀南家畜保健衛生所東牟婁支所：0735-58-1481

別紙１

ミツバチヘギイダダニ増殖曲線と対応



シュガーロール法を用いたダニ感染率の検査方法

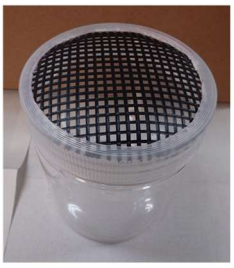
別紙２

準備するもの

・シェイカー（手作り）
・粉砂糖
　（コーンスターチが入っていないもの）
・計量カップ
・計量スプーン
・タイマー
・虫メガネ

シェイカー

側面



上部

白いトレイ２つ

検査方法

蜂児のいる巣枠を選び、女王蜂がいないことを確認し、トレイに蜂を落とす

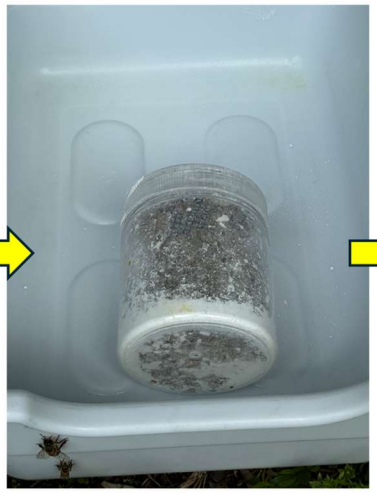
蜂をトレイの片隅に寄せ、静かに計量カップに注ぎ入れる

計量カップの規定量まで蜂を入れる

目安
100ccで約200匹
150ccで約300匹

計量カップの蜂をシェイカーに移し替え、計量スプーンで粉砂糖をいれ、１分間横に振る

※蜂100匹に対し、粉砂糖大さじ1杯が目安



振り終わったら、シェイカーを横にし、約30秒以上静置する

シェイカーを逆さまにし、粉砂糖をトレイの上に全て出す
この時、ダニがいれば、一緒にトレイに落ちます

トレイの中の粉砂糖をよく観察し、ダニの数を数える

※ごみか、ダニかわかりくい場合、箸等でつついてみるとダニは動くので判別しやすくなります

＜ダニの感染率の算出方法＞

ダニ感染率（%）＝（落ちたダニの数÷サンプル蜂の数）×100

※ダニ感染率３%以上で直ちに処置が必要です

例）サンプル蜂300匹（150cc）を検査し、落ちたダニの数が10匹の場合
ダニ10匹÷蜂300匹×100≒3.33...
よってこの蜂箱のダニ感染率は、約3.3%　となります